# お子さまとCOVID-19ワクチンについて話す

最終更新日：2022年8月8日

重い免疫不全または障害を持つ、そしてCOVID-19感染により重病になるリスクを増大させる複雑な、または複数の疾患を持つ6ヶ月～4歳のお子さまに対しても、ワクチン接種が推奨されています。お子さまがCOVID-19ワクチンについて好奇心を抱いたり、様々な質問をするのは自然なことです。以下ではワクチン接種前後にお子さまと話す際のヒントをお伝えします。

[保健・高齢者介護省（Department of Health and Aged Care）のウェブサイト](https://www.health.gov.au/)に掲載された、最新の医学的勧告を常に入手することが大切です。

またCOVID-19ワクチン接種に関して何か懸念や疑問があれば、お子さまが接種を受ける前に接種実施者やかかりつけの医師に相談することができます。

お子さまの話を聞き、ワクチン接種に対する恐怖心を受け入れる姿勢が大切です。

* これまでにCOVID-19ワクチンについて習ったことを教えて。
* 今までにワクチン接種を受けたことがある？

おそらくお子さまは以前にワクチン接種を受けたことがあり、それほどつらくはなかったことでしょう。

COVID-19ワクチンについて知っていることを正直に、お子さまの年齢に合わせて説明しましょう。

子どもとは大人の無意識による感情的刺激を察知するものであり、そのため怖さについてばかり話すことは建設的でなく、かえってお子さまが不安に感じる可能性があることを忘れないようにしましょう。

医師や医療専門家にいくつか質問をされた後に腕（6ヶ月から5歳のお子さまの場合は脚）にちくっと痛い針が刺され、針を刺した部位がその後少し痛むかも知れないことを説明します。 針を刺した部位が少し痛むことは普通のことであり、薬が効いているしるしであること説明して安心させてあげましょう。

お子さまがワクチン接種に不安を持つ場合、お子さまの気持ちについてさらに尋ねてみるか、必要であれば医師に対してさらに細かな助言を求めましょう。

## お子さまの質問に答える

お子さまが尋ねてきそうな質問への返答に使える、お子さま向けの返答例を準備しておきましょう。この会話を通して役立つかもしれない主な質問と返答例を記載します。

役立つようであれば祖父母を保護すること、また通学や団体スポーツ参加など引き続きできる活動などの実例を利用しましょう。

オーストラリアでは、すべての医薬品はその安全性を確認する当局によって、徹底的な検査が行われています。 安全でない医薬品が投与されることはありません。

お子さまが注射に対する恐怖心を抱いている場合は、効果的な準備や気をそらすための方法が重要です。

5歳以上のお子さまの場合、地元の薬局や一般医など、より小規模で通い慣れた場所を訪れるとよいかもしれません。大規模の接種実施施設はにぎやかで出入りが激しく、不安感を増大させる可能性があります。

お子さまのお気に入りのおもちゃや本を持参して、接種を前向きな体験とし、気をそらすために利用しましょう。

お子さまが注射に対する恐怖心を抱いている場合は前もって実施者に連絡し、急かしたり強引に接種したりすることがないように、十分な時間を取ってもらいましょう。

ワクチンに関するさらなる情報は、[保健・高齢者介護省（Department of Health and Aged Care）のウェブサイト](https://www.health.gov.au/initiatives-and-programs/covid-19-vaccines/translations)、 [www.health.gov.au](http://www.health.gov.au/covid19-vaccines-languages) より得ることができます。

あるいは、**1800 020 080**の全国コロナウイルスおよびCOVID-19ワクチン・ヘルプライン（National Coronavirus and COVID-19 Vaccine Helpline）へお電話ください。無料通訳サービスのご利用は、8を押してください。

聴覚障害者、難聴者、言語障害者の方は、**133 677**の全国リレーサービス（National Relay Service）へお電話ください。